

凱旋
第三十八聯隊

飛泉
神溪作

特71

564

301181-000-3

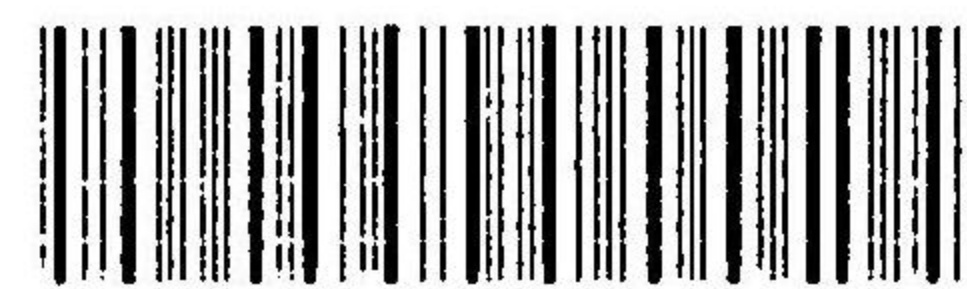
特71-564

第三十八聯隊

眞下飛泉・津田神溪／作，三善和氣／曲

M39.2

CEH-0023



特71
564



77W13828

序 言

昨春日露ノ平和破レ 大詔一タビ下ルヤ山城大和聯隊タル我が歩
兵第三十八聯隊及後備歩兵第三十八聯隊ノ將卒ハ家ヲ忘レ身ヲ挺
シ盛夏ノ候互寒ノ節勇戰奮闘戰テ勝タザルナク攻テ取ラザルナク
強敵ヲシテ復タ起ツ能ハザルニ至ラシム
茲ニ眞下津田ノ二氏此勇戰奮闘ノ狀ヲ歌フ、取ツテ之ヲ見ルニ此
等歴戰ノ跡讀ミ得テ瞭然タリ
嗚呼將來國家ノ干城タリ國民ノ後援者タル小國民ニ可憐兒ニ此歌
ヲ讀ミ此歌ヲ唱シテハ赫々タル戰勝ハ夥多忠勇ナル戰士ノ血ヲ以
テ購ハレタルコトヲ想ヒ義勇奉公ノ念ヲ肝銘スルト共ニ好恰ノ紀
念トスルハ蓋シ作者ノ精神ナランカ

明治三十八年十二月三日

歩兵第三十八聯隊補充大隊長 宇津木岩吉

第三十八聯隊

(は調二拍子)

三善和氣作曲



1 1 3. 5 | 1. 1. 1. 1 | 2. 2 2. 1 | 6. 0
ハ ナ ハー サ ク ラ ギ ヒ ト ハ ブ シ



5. 5 6. 5 | 3. 3 3. 3 | 5. 5 3. 1 | 2. 0
ブ シ ノー ホ マ レ ヨ イ サ ギ ヨ ク



2. 2 2. 2 | 2. 2 3. 1 | 6. 6 1. 6 | 5. 0
チ ッ テー モ ド ル ト エ ガ ホ シ テ



13. 3 5. 5 | 3. 3 3. 1 | 2. 2 3. 2 | 1. 0
サ ク ラー サ ク コ ロ デ ラ レ シ ガ

第三十八聯隊

眞田飛泉
津下神溪
合作

一、花は櫻木人は武士

散つてもどると笑顔して

櫻さく頃出られしが

出られてよりは早二年

二、

諸所のいくさに手がらして

わが深草の聯隊の

名譽をあげて下されし

三、

まづ初陣は金州の

南門破壊の夜襲にて

工兵隊ともろともにも

大雷大雨を犯しつつ

四、

難なく之をば乗取つて

つづいて進む南山は

敵が死守する險要地

これをも遂に陥いれ

五、

折しも北の大敵の

南へくだると聞くからに

いで荒膽をひしがんと

方向かへて急進す

六、

さらでも暑き夏の日

重き背囊脊に負ひて

夜晝駆歩つづけつつ

つけばいくさの半なり

七、早速に敵の右翼をば

突つけよの任にん務むうけたれば

山やま又また山やまを追おひのぼり

谷たに又また谷たにへ追おひつむる

八、これぞ六月十五日

又また雷かみなりのなりいでて

爾あめさへ強つよき午後三時

得とく利り寺つ附ふ近きんのいくさ也な

九、七月二十五日には

大だい石せき橋きょうの附ふ近きんにて

敵てきの主しゆりよく力を前まへにうけ

その騎き兵へいをば左ひだりにし

十、而しかも沈ちん着ちやく誤あやまらず

剛ごう膽たん遂つひに敵てきをして

已おが倉くら庫こをやき拂はらひ

北きたへ敗はい走そうせしめたり

十一、次は遼陽附近にて

八月二十六日に

又向ふ敵を突撃し

占領したり耿庄子

十二、續いて軍は前進し

敵の右翼にあたりしも

ここを先途と戦ひて

彼もなかく退かず

十三、砲聲絶ゆるひまもなく

終日空に響きしが

我友軍の突撃に

首山も遂に陥りて

十四、第四師團は追撃を

尙つづけつつ三日経て

四日の午前一時には

其停車場をば占領す

十五

沙河は十月十五日

小泉旅團と諸共に

拉木屯なる敵兵を

苦戦の後に突きくづし

十六

沙河堡附近に前進し

第三師團に増加しつ

しばく迫る逆襲を

拒ぎて危急を救ひたり

十七

かくて三十七年も

對陣中に暮ししが

あけて三十八年の

二月下旬となりければ

十八

いで大打撃を加へんと

密かに陣を整へて

三月一日午前九時

北臺子附近を攻撃す

十九

敵には堅固の陣地あり

且や兵力多くして

覺悟も強く死を以て

退かじとぞ控へたる

二十

われには平坦開濶の

畑地を前進する上に

地面氷りて鐵の如

塹壕築くすべもなく

二十一

躍進毎に死傷者は

驚くばかり多くして

其全部をば失ひし

中隊さへもありきとぞ

二十二

されども忠勇武烈なる

我ますらをはひるむなく

彈丸雨とふる中に

任務を全く果したり

二十三、敵は死力を傾けて

逆襲數度に及びしも

我兵常にうちはらひ

敢て一歩も退かず

二十四、かくて七日は苦しめし

小貴興堡の強敵を

第三大隊夜襲して

奪ひ取たる雄々しさよ

二十五、雄々しく強き我軍の

鋒さきいかで對ひ得ん

敵はたまらず總くづれ

又わが勝利となりにけり

二十六、記せよや第十九旅團は

この奉天の戦鬪に

勲功殊に高しとて

感状うけたる光榮を

二十、此方旅順のいくさには

後備歩兵の將士らが

七月二十五日より

苦戦に苦戦を重ねつつ

二十八、十一月の末つ方

突撃隊を組織して

三百三なる高地をば

占領するの端となり

二十九、つづいて翌月十八日

東鷄冠山砲臺

突いて其夜に占領し

感狀得たる勳あり

三十、京都附近の男の子らは

弱しと人にそしられし

我深草の聯隊の

名譽は實にこの如し

三十一、折しもここに兩國の

平和は圖らず結ばれて

昨日の敵は今日の友

友と親しむ今日なれど

三十二、今日まで數度の戦ひに

血をもて錦と飾つたる

高き譽れの聯隊旗

永く子孫に傳へよや

定價 金貳錢

明治三十八年十二月十二日印刷

明治三十八年十二月十五日發行

明治三十九年二月十七日五版發行

作歌者 眞下飛泉

作曲者 三善和氣

著作發行者 藤井孫兵衛

印刷者 神谷昌一

京都市御幸町姉小路北入大文字町十二番戸



發兌

京都市御幸町姉小路北入

五車樓書店

海(電話五番二十一番)

學校及家庭
用英文一教
故事唱歌

第一篇
第二篇
第三篇
第四篇
第五篇
第六篇

出露戰負看凱

征營友傷護旋

第八版 第五版 第六版 第六版 第八版 第一版

大東乃第二第三

山鄉木二二九

元大大元

帥將將隊隊

第七版 第七版 第八版 第八版 第八版 第八版

真下飛泉作歌

定價一册金貳錢

全國市郡各書店
均有發售